



館長だより

山形県産業科学館

令和 6 年 9 月 1 0 日 (火)

発行 館長 加藤 智 一

悲しきマングース

先ごろ、テレビ報道でこんなニュースを目にしました。タイトルは「苦節 20 年超 奄美大島でマングース根絶宣言」。環境省が開いた会見で環境省は、有識者検討会で科学的にマングースの根絶が確認されたとして、正式に「根絶宣言」を発表しました。「環境省として、ここに奄美大島における特定外来生物フイリマングースの根絶を宣言いたします。何よりも多くの市民・島民に支えられて、今日の画期的な日を迎えられたと思う。本当にありがとうございます。おめでとうございます。」と……………。

対象となっているマングースの正式名称はフイリマングース。もともと奄美に生息していたわけではありません。1979 年頃に沖縄島から 30 頭程度のマングースが持ち込まれ、名瀬市朝仁赤崎周辺に放獣されたことがはじまりとされています。定着したマングースはしだいに生息域を拡大し、農畜産被害が見られるようになったことから、地元市町村では 1993 年から有害鳥獣としての捕獲を開始することになったのだとか。

なぜ有害鳥獣となってしまったのか。フイリマングースは、バッタやコオロギなど小型の無脊椎動物から、カエルやネズミ、ウサギなどの脊椎動物まで様々な動物を捕食します。マングースは奄美大島において分布域を広げ、2000 年には推定 1 万頭にまで増え、アマミノクロウサギやケナガネズミといった希少な固有の動物にも大きな影響を与えるようになりました。みなさんは「蛇とマングースの闘い」という話を聞いたことがあると思います。もともと厄介者の毒蛇を退治してもらおうという人間の都合の良い解釈のもと移住させられたマングースですが、



命を懸けて蛇とやりあうより、ウサギやネズミを捕食するのはごくごく当たり前の生存戦略。それをなんだ、増えすぎたから殺すのか。とマングースは思ったことでしょうか。人間はなんと罪つくりな生き物なんでしょうか。もちろん私も人間ですから、島民のみなさんのお気持ちもわかります。根絶宣言はめでたいことなのでしょう。

少し視点は違うかもしれませんが、山形県には古くから、草木に感謝し、その成長を願って建立されたと伝えられる石碑、「草木塔」というものがあります。江戸時代に火事で屋敷が焼失し、その再建のために山林の木々が伐採され、そのことに対する感謝や鎮魂の念を供養塔として残したとされています。草木塔は「草木供養塔」とも呼ばれ、全国に約 160 基あり、その 9 割が山形県に存在します。江戸時代、安永元（1772）年に江戸の藩邸が焼失し、その再建のために米沢の山林の木を伐採。また安永 9（1780）年には米沢で大火があり、その復興で大量の樹木を伐採しました。同年、それらを鎮魂するために米沢藩主・上杉鷹山が建立した草木塔が、日本で最も古いものとされています。



どうでしょう。これは私の提案ですが、人間の都合で持ち込まれ、人間の都合で絶滅に追い込まれたマングース

に鎮魂の念を込めて慰霊塔のようなものを建ててあげては。こんな事を言い出す私は、人間としてマングースに対して負い目を感じているからです。

平安時代の話ですが、崇徳上皇、菅原道真、平将門は日本三大怨霊と言われ、いずれも生前に大きな不遇を経験し、死後に人々に恐れられる存在となりました。それは彼らの死後に起こった数々の不可解な現象や災害が彼らの霊の仕業とされたからです。そのため人々は社や塚を建てて自分自身の負い目を納得させたのではないかと思います。環境省の方々、そして奄美の方々、どう思われますか。

一切衆生悉有仏性